

新聞雑誌の寄贈、顕彰される

東京大学稷門賞受賞

東京大学の発展に貢献した個人、法人又は団体を顕彰する二〇二三年度東京大学稷門（じよくもん）賞に、明治新聞雑誌文庫への資料寄贈で長年貢献されている松岡正樹氏（京都バプテスト教会牧師）が選ばれました。



二〇二三年十月授賞式記念撮影（前列中央 松岡氏）

松岡氏は、二〇〇四年から現在に至るまで二十年もの年月に渡って、明治文庫への寄贈を続けられています。ご寄贈いただいた資料には、当時の商業ルートに乗らない業界新聞、発行部数の少ない地方の新聞など、国立国会図書館ほか他館で所蔵のない稀少な資料が多く含まれています。

また、寄贈資料は、研究者である松岡氏の丹念な調査のもと、未所蔵の資料や号数に絞り込まれています。新聞、雑誌は、欠号なく揃って残ることが難しい資料ですが、この欠号を発見、ご寄贈くださる松岡氏の貢献は、まさに歴史の空白を埋めるものです。

寄贈に当たっての調査と、労をいとわぬ行動に、多くの先生方

明治新聞雑誌文庫 ニューズレター

第十一號
令和六年三月二十七日（水）
編集・発行
東京大学大学院法政学政治学研究所
附屬近代日本法政史料センター
明治新聞雑誌文庫
〒113-0033
東京都文京区本郷七-3-1
電話 〇三五六四-1327

年一回発行

URL
<http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/>
Mail
meiji.j@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
X(旧 Twitter)
[@UTokyo_LMeiji](#)

が感銘を受け、関係者の尽力により、今回の受賞となりました。松岡氏の受賞を心からお祝い申し上げますと共に、明治文庫は、収集された資料を後世へ確実に引き継げるよう保存し、多くの方に活用いただけますよう、努力してまいります。

日本から世界まで 寄贈資料ご紹介

新規収蔵など松岡氏からご寄贈いただいた資料を一部ご紹介いたします。

◎『関西日報』 大阪：関西日報社

明治二十二年に大阪で発行、末広鉄腸主筆の政論新聞『関西日報』の創刊号から一か月分を、ご寄贈いただきました。明治文庫では附録のみ所蔵しておりましたが、本紙は初所蔵となります。『関西日報』



「淑女と新聞社」 『関西日報』

について、宮武外骨が『公私月報』十一号で言及しており、附録絵からも創業当時の社屋や賑わいが伝わります。創刊号の社告や寄稿から、外骨の考察もより鮮明となり、近代史にとって貴重なコレクションの追加となります。

雑誌に見るユニニティ

◎『鎮西』 札幌：鎮西社



大正十五年のものをご寄贈いただきました。タイトルの鎮西は九州を

指す言葉ですが、発行は札幌。誌面から、九州の郷友会の機関紙であることがわかります。この時期、郷土を離れた場所で、同郷人たちが雑誌を情報交換の場として協力する様子が見えられます。

◎『独立(The Independent)』 桑港：独立社



桑港（サンフランシスコ）の地で発行されていた在留邦人基督教徒

向けの雑誌。本国キリスト教伝道者の演説筆記が掲載される一方、読みやすく平易な内容から、当時の桑港での教会の動向やユニニティ形成、読者層がうかがえます。海外発行の邦字資料としても重要なコレクションとなります。

広がる、繋がる明治文庫

高校生への展示賑わう 「近代日本の新聞・雑誌を見る」 —明治新聞雑誌文庫の世界—

二〇二三年三月二十七日(月)、高校生を対象とした「東大の研究室をのぞいてみよう!」多様な学生を東大に「法文一号館学生ラウンジ」プログラムにおいて、当文庫資料の展示を開催しました。対部直教授より明治新聞雑誌文庫についての講義も行われ、二〇二一年再開館後初展示となる会場は、高校生、保護者



▲高校生たちが見入る展示会場



▲牧野博士作成の植物標本と新聞

「牧野新聞」ほか資料出陳、続々!

明治文庫資料の出陳も相次ぎました。NHKドラマでモデルとなった牧野富太郎博士の「牧野新聞」植物標本を始め、錦絵、新聞など多くの資料が学内外で展示され、好評を博しました。その一部をご紹介します。

の方々に大いに賑わいました。本プログラムは、高校生対象のため、教科書に掲載されている資料や、身近な新聞の創刊号などを展示、また、外骨の「碩智研法」、「中央公論」吉野作造論文など、多彩な資料を並べ、充実した内容の展示となりました。寄付金でデジタル化が可能となった新聞号外などデータベースは、原本とPCを隣り合わせて展示しました。多くの来場者が興味深く操作を行い、実際の資料への質問も飛び交いました。アンケートでは、「もっとゆっくり見れたかった」「長く展示してほしい」などの感想を頂きました。学内外より、百五十名もの来場者があり、実りある展示となりました。



2023年度展示出陳展覧会

「田中芳男と牧野富太郎 田中芳男文庫・植物資料展」東京大学総合図書館
「揚州周延 明治を描き尽くした浮世絵師」町田市立国際版画美術館
「明治のメディアア王 小川一真と写真製版」印刷博物館
文京区立森鷗外記念館 東京都立大学
牧野標本館など。
放映、掲載なども多数資料利用あり。

“初期新聞”全デジタル化進む

前号でお知らせした国文学研究資料館が推進している「国書データベース」で貴重資料となる初期新聞約百二十五点が、公開されました。次年度以降も撮影公開が進む予定です。明治文庫資料がより、どこからでも使いやすくなります。

外骨書函念願のデジタル化へ

東京大学デジタルアーカイブズに採択され、外骨書函の全デジタル化が開始されました。今年度は図書資料の撮影が完了、順次オンライン公開を行う予定です。編集者としても才を発揮した宮武外骨が発行した資料の魅力が伝わるよう、撮影を工夫しています。ご期待下さい。



創設当時から残る外骨書函

瀬木翁寿像、耐震再設置



博報堂創始者「瀬木博尚翁胸像」
台座題字「明治文化」
は、清浦奎吾撰文・筆

当文庫創立の寄付者である、瀬木博尚氏の銅像と台座を教員閲覧室に再設置しました。専門家によって耐震性を確保、固定し、学内外協力、寄付金によるご支援で可能となりました。深く御礼申し上げます。

『開花新聞』ほか補修進む

長らく懸念しておりました劣化資料『開花新聞』、『憲法発布祭典雙六』、『列会署名名簿』、『絵入愛知新聞』等の修復を、専門業者(資料保存器材)へ依頼しました。皆さまからの寄付金により補修が可能となり、心より御礼申し上げます。



東京大学
法学部
振興基金
Web
サイト

<https://www.j.u-tokyo.ac.jp/alumni/donation/>



吉野文庫『憲法発布祭典雙六』

法学部振興基金寄附スタート

法学部振興基金において明治新聞雑誌文庫への支援が追加されました。寄附への窓口が広がり、より多くの方からのご寄付を頂戴しております。深く感謝申し上げます。